

# 平成29年度 学校関係者評価報告書

平成30年3月28日

学校法人大原学園

大原和服専門学園

## 1. 学校関係者評価の基本方針

学園教職員で構成する自己点検自己評価委員会が取りまとめた自己評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会を行い、委員の多角的な意見をふまえ、より質の高い効果的な学校運営の改善のための具体案をまとめた。それをもとに組織的かつ継続的な学園運営の改善活動を行うとともに、学園の関係者に当学園の情報を開示し共有することで学園に対する理解と協力を促すこともあわせて目指していく必要がある。

その結果、当学園の社会での認知を上げるとともに当学園で学ぶ学生に対する教育の質の組織的かつ継続的な向上を実現し、学園の社会的な役割を高めていくことを学校関係者評価の基本方針とする。

## 2. 平成29年度学校関係者評価委員会開催概要

第1回 開催日時：平成29年8月19日（土）14：00～16：00

開催場所：大原和服専門学園 2F 講堂

委員会内容：1. 大原和服専門学園評価実施規程改定案  
2. 平成28年度自己点検自己評価報告書の報告  
3. 審議

第2回 開催日時：平成29年11月18日（土）14：00～15：40

開催場所：大原和服専門学園 2F 講堂

委員会内容：1. 平成29年度奈良県専修学校各種学校連合会実施在籍生意識調査  
大原和服専門学園在校生アンケート報告  
2. 教育課程編成委員会報告  
3. 企業臨地実習の提携状況の報告  
4. 審議

第3回 開催日時：平成30年3月3日（土）14：00～16：00

開催場所：大原和服専門学園 2F 講堂

委員会内容：1. 平成29年度卒業予定者就職進路状況、企業臨地実習の取組状況  
2. 教育課程編成委員会和裁分科会・染織分科会実施内容の報告  
3. 審議

学校関係者評価報告書理事会へ報告：平成30年3月28日（水）

## 3. 大原和服専門学園学校関係者評価委員名簿

奈良県職業能力開発協会	専務理事	小西彰
大阪和服裁縫協同組合	理事長	大森貴之
美芸学園高等専修学校	校長	西村典久
泉工業(株)	代表取締役社長	福永均
立命館大学 経営学部 経営学科	准教授	吉田満梨
保護者代表		森井和子
卒業生代表		松本美波

## I. 重点目標

### ●重点目標・就職率90%以上について

重点目標の中で関連分野への就職率90%以上とあるが、就職だけを目指すのか。フリーランスとして進路をとる道もあると思われるが。どのように考えているのか。

(学園の方針)

奨学金を借りて進学する学生もおり安定を求めて就職する学生が増えている。その中で独立を支援するための研究生制度・研究員制度や独立開業するための研修の実施などおこない学園として支援することが必要と考えている。今後は就職だけではなくフリーランスで開業する者を含めて90%以上目指していきたい。

## II. 各評価項目について

### 1. 教育理念・目的・育成人材像

#### ●産業界が求める人材ニーズの把握について

学生の就職要望を吸い上げ企業訪問などアプローチをかけるコアな学校の印象を受けた。その中で、新しいキャリアが見え、企業が求める人材を細かく調整していると感じた。企業の人材ニーズの把握などどのように考えているのか。

(学園の方針)

学生及び企業の人材ニーズの把握は、それぞれ多様化しており把握することが難しい状況である。そのため、企業臨地実習を取り入れ一歩踏み込んだ産業界との連携をすすめている。この実習を通して企業の人材ニーズと学生の要望をマッチングできる制度として充実させていきたい。

#### ●和裁でフリーランスを目指す学生に対する企業臨地実習の取組について

(学園の方針)

現在、フリーランスの企業臨地実習は行っていないが、取り組みを検討する必要があると考える。現在の学生は安定を求めて企業就職が増えているが、継続して和裁を仕事として続けられる環境を整備するため、研究生・研究員の充実なども含めて取り組んでいきたい。

### 2. 学校運営

#### ●教員の2極化の問題について

和裁教育では技術を維持していくことが大切であると思う。技術を維持するための勉強会など必要ではないか。中間層がないとのことだが、先生の採用方法を色々と模索することが必要ではないか。子育ての終わった卒業生の再雇用を考えてはどうか。

(学園の方針)

全国から入学生を迎えており、学園を一度離れてしまうとなかなか戻ってくるのが難しい。そのため、研究生・研究員制度を充実させ、和裁を継続できる環境を整備することが必要である。また、今後は技術研修を充実し教員を育てていく予定である。

●和裁を継続するための取組について

和裁を仕事として継続するためには、卒業してからブランクをつくらないこと。子育てしながらできる魅力のある仕事だという事を伝えることが大切ではないか。

(学園の方針)

実技だけではなく、小中学校で和裁を教える経験をおこなったり、技術大会への出場を促し目標を持たせる工夫などおこなっている。

●定期的に外部の先生を呼んで教えてもらうなど交流会をおこなってはどうか。同じことを習うにしても外部の先生から習うと別に伝わることもあり、モチベーションも上がるのではないか。

(学園の方針)

現在教職員向けに技能研修など行うようにしているが、今後学生向けにも必要と思われる。また、他の人が行っている技術を観察することも学びにつながると感じている。

### 3. 教育活動

●教員の技術指導スキルについて

教員の技術レベルや学生の技術到達レベルが低下しているとのことだがそれに対する対策はどうか。和裁技術を変えてはいけませんが、授業の方法は色々と工夫をして変えても良いと思う。

(学園の方針)

学生の育成には教員のレベルアップが必要であると考えている。経験が浅いと技術的な大切なことが伝えられない。研究生・研究員として和裁技術を継続的に携わるとともに、教えることに関わる環境づくりも必要と考える。色々な角度から考える環境が育成には必要である。

### 4. 学修成果

●一般的に新卒者の早期離職が問題になる中、御校は専門学校として職業に直結しており、また寮や給食制度があることで社会生活の訓練ができる有利さがあると感じるがいかがか。

(学園の方針)

業界の評価として当学園の卒業生は比較的長く仕事を継続しており評価されている。これは産学協同システムによる技術教育と生活教育の両立の成果であると感じている。

●学生のモチベーションの維持・向上の方策について

(学園の方針)

卒業や国家検定の取得等の大きな目標だけではなく、そこに行きつくための小目標をたてる必要があると感じる。

また、例えば男物浴衣を縫うだけではなく、それをお世話になっている男性に浴衣を夏休みプレゼントするなどやりがいを感じられるような工夫なども行っている。また、着物を着て古都奈良・京都を散策する校外学習やその際に着物を着ている人を観察するなど、様々な角度から着物を学べるように工夫をしている。

●国家検定の試験を見ていて1つ1つ時間短縮できる場所があったと感じる。

努力と工夫すればできるということを上手く伝える必要があるのではないか。

(学園の方針)

在学中にもう少し頑張らせることができれば結果が違っていただのではないかと感じている。学生自身が限界をつくってしまう場合もあり無理やりさせることもできないため、もうひと押し押せるかの指導の見極めが難しい。

## 5. 学生支援

●留学生や学習障害を持つ学生に対して、行政などが学生支援や教員研修を実施していないのか。

(学園の方針)

奈良県より奈良県専修学校各種学校連合会に対して補助金の支給条件が変更となり、スクールカウンセラー等の専門家派遣事業に対して半額補助を支援してもらえることとなった。各校が半額を出す必要があり意見を調整し導入について検討していきたい。

●香港から留学生を受け入れているが文化や考え方の違いで軋轢など生じていないか。

(学園の意見)

国が違うということでの問題はない。学習上覚えるには問題がない。

## 6. 教育環境

●企業臨地実習の導入の進捗状況はどうか

(学園の方針)

昨年度は着物染織科の3年次生2名に対して2社の企業臨地実習をおこなった。今年度は着物工芸科・和裁科の学生も企業臨地実習を行う予定である。今後は、全国の産地メーカーなどにも提携を広げ、学生の受け入れ態勢の充実を図りたいと考えている。

●教員がさらに技術指導ができる環境を整備すべきではないか。

(学園の方針)

現在、私学法に抵触しない教員数の確保はしているが、さらに充実するには学生数の確保が必要となる。求職者訓練など相乗効果の上がる新しい取り組みが必要と思われる。

●和祭は非常によいイベントだと思うが、和祭の取組は継続するのか。

(学園の方針)

小中学生を中心に日本文化や日本のモノづくりを体験できるイベントとして行っている。地元から進学者を確保する環境を創る目的もある。現在6回を行っているが徐々に地元での認知度があがってきているように感じている。継続して行っていきたいと考えている。

## 7. 学生募集

●学生募集について

学校見学で上級生が見学者を教えるなどで学校の印象も変わると思うが、取り組みはどうか。

(学園の方針)

現在、体験入学会では、学園概要説明、施設授業見学、給食体験、モノづくり体験、茶話会、寮見学など行っている。モノづくり体験や茶話会で在校生との交流を行っている。「自分の進路は自分で決める」をオープンキャンパスポリシーとして定め、見学者には様々な角度で学園生活を感じることができるように対応している。

●精神的な病気を抱える場合の受け入れはどう考えているのか。

(学園の方針)

現在の教職員では対応するための知識が少なく、今後は生徒に対する配慮や対応などを学び対応力を高めていく必要がある。専門家の力を借りていく必要があると考える。

●生涯にわたって教育と就労を交互に行うことをすすめるリカレント教育は意義のあることだと考えられるので社会人を増やすことを明確に打ち出してはどうか。

留学生、年齢の幅、障害を持つ学生にも親身に対応している学校だと思うので、これを特色として打ち出していければよいのではないかと考えている。

(学園の方針)

18歳人口が減少していく中、多様な層の受け入れを目指している。平成30年2月に職業実践専門課程の認定を受け、今後は2年学科を職業実践専門課程の認定手続きをすすめ、専門実践教育訓練給付金の対象学科として社会人の学び直しの受け入れをしていきたい。多様な人材が受け入れることができる仕組みを構築していかなければならないと考えている。

## 8. 財務

●財務の改善には、学生の確保が必要と思われるが、近隣の学生募集で補助や減免制度を利用して入学促進できないか。専門学校に対する支援は難しいと思うが、伝統産業のモノづくりに対する支援は可能性があるのではないかと考えている。企業との取り組みなど絡めて考えてはどうか。

(学園の方針)

奈良県と奈良県専修学校各種学校連合会との連携をさらに深めて専門学校の認識をあげていくことが必要と思われる。奈良県では奨学金の地域創生枠で伝統工芸や美術に関わる人材について奈良県に一定期間居住することが条件で奨学金が免除される制度があるが、大学が対象となっており、専門学校が含まれていない。行政などからの補助は能動的に情報収集をしなければ受けられないので、積極的に取り組まなければならないと考えている。

## 10. 社会貢献・地域貢献

●留学生の受け入れは大変だと聞いているが、今後も受け入れていくのか。

(学園の方針)

現在専門学校では積極的に留学生を集めている学校も非常に増えているが、その場合は留学生のニーズも踏まえていかなければならない。当学園は、積極的に学ぼうと意欲のある留学生に絞り、積極的な留学生の募集は慎重にすべきではないかと考えている。

●男子学生の受け入れはどう考えているのか。

(学園の方針)

企業のニーズを聞くと、機械の扱いには男性が望まれている場合がある。また、男性・女性に求められることがそれぞれ違うため、女子校のメリットデメリット、男子校のメリットデメリット、共学のメリットデメリットそれぞれ調査をし検討していく必要があると考えている。